

CSR
環境報告書
2015



JFE プラリソース 株式会社

◇ 報告対象期間

2014年4月1日～2015年3月31日

一部、継続・直近の活動を含みます。

目次

- 1 ごあいさつ
- 2 会社概要

マネジメント

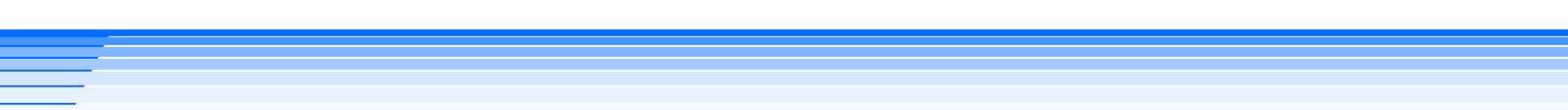
- 5 企業理念・行動規範・行動指針
- 6 コーポレートマネジメント
- 8 環境マネジメント
- 11 安全衛生マネジメント

社会活動

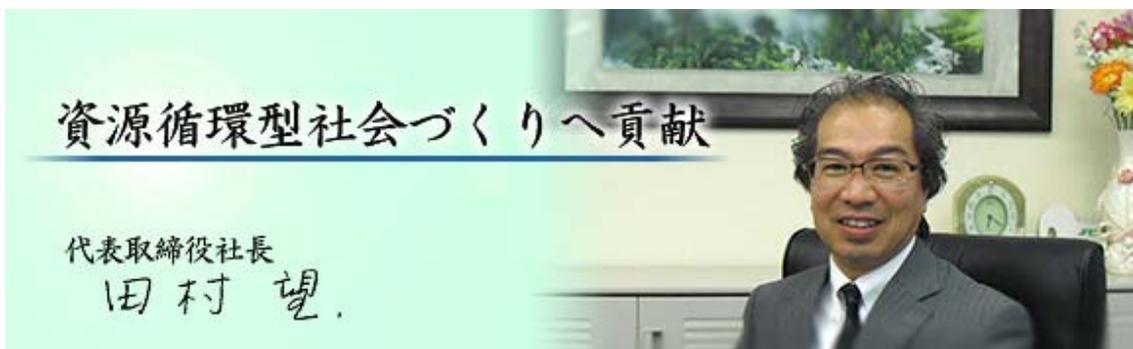
- 13 お客様・お取引先様とともに
- 15 地域社会の皆さまとともに
- 16 行政との連携
- 20 社外からの評価
- 22 従業員とともに ～安全衛生活動～
- 24 従業員とともに ～安全な環境づくり～

環境活動

- 29 環境経営への取り組み
- 30 環境コミュニケーション
- 31 環境と調和した製品・サービス
- 34 環境負荷の低減



■ ごあいさつ



JFEプラリソース株式会社は、2009年7月JFE環境株式会社の『容器包装プラスチックリサイクル事業』を会社分割して承継しました。以来、高炉やコークス炉へのプラスチック利用及び材料リサイクルを含めたプラスチックリサイクル事業を通して、資源循環型社会づくりに努めております。

NFボード®を利用した材料リサイクルにより『廃プラスチックリサイクル推進とCO₂削減』、更に使用後再リサイクルすることにより『化石燃料削減』等を実現しています。環境に優しい企業として、市民の皆様へのリサイクルの『見える化』に注力し、各種リサイクルを推進しております。

また、環境保全は本事業の根幹であり、事業活動に伴う環境負荷をできるだけ少なくするために、全員参加型の環境マネジメント活動を継続展開し、トップレベルの環境配慮型企業を目指します。

現場パワーアップを通して働きがいのある会社として、社員一同一致団結して『創意・挑戦・創造』する会社づくりに向け頑張っていきたいと考えております。

弊社に対し、より一層のご支援とご愛顧を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

代表取締役社長

田村 望

■ 会社概要

会社名	J F E プラリソース株式会社		
代表者	代表取締役社長 田村 望	(2015 年 4 月現在)	
	相談役 堀田 裕久		
役員	取締役 鈴木 克紀 杉澤 元達 須田 守 大河内 巖		
	監査役 今井 一彦		
設立年月日	2005 年 11 月 2009 年 3 月登記 (定款・社名変更)		
資本金	90 百万円		
売上高	約 30 億円		
従業員数	約 70 名		
住所	本社	〒210-0866 神奈川県川崎市川崎区水江町 5 番地 1 TEL 044-299-5193 FAX 044-299-5328	
	京浜事業部	同上	
	福山事業部	〒721-0956 広島県福山市箕沖町 1 1 3 番地 TEL 084-981-3160 FAX 084-981-3170	
URL	http://www.jfe-plr.co.jp/		
事業内容	一般廃棄物の再資源化およびリサイクル事業 上記事業に関する技術・装置および再生プラスチック商品の販売		
沿革	2000 年 4 月	水江原料化工場稼働 (処理能力 185 t / 日) 福山原料化工場稼働 (処理能力 200 t / 日)	
	2002 年 9 月	N F ボード製造工場稼働	
	2009 年 7 月	J F E 環境株式会社から容器包装プラスチックの リサイクル事業を承継 J F E スチール株式会社が全株式取得	

京浜事業部
水江原料化工場



NFボード製造工場



福山事業部
福山原料化工場





マネジメント

企業理念・行動規範・行動指針

企業理念

「JFEプラリソース株式会社は、環境と調和した社会の構築に貢献します。」

行動規範

「挑戦。柔軟。誠実。」

行動指針

JFEプラリソース株式会社の役員および社員は、「企業理念」の実現に向けたあらゆる企業活動の実践において、「行動規範」の精神に則るとともに以下の「行動指針」を遵守する。

経営トップは自ら率先垂範の上、社内への周知徹底と実効ある体制整備を行い、企業倫理の徹底を図る。

本行動指針に反する事態には、経営トップ自らが解決にあたり再発防止に努める。また、社内外への迅速かつ的確な情報公開を行い、権限と責任を明確にした上で厳正な処分を行う。

1. 良質な商品・サービスの提供

優れた技術に基づいた安全で高品質の商品とサービスの提供に努めるとともに、個人情報・顧客情報の保護に十分配慮し、お客様から高い評価と信頼を得る。

2. 社会に開かれた企業

株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報について、社会への積極的な情報公開に努める。

3. 社会との連携と協調

良き企業市民として、社会との連携と協調を図り、積極的な社会貢献に努める。

4. グローバル化

グローバルな視点を持ち、各種の国際規範はもとよりそれぞれの文化や習慣を尊重し、世界の様々な人々との相互理解に努める。

5. 地球環境との共存

地球環境との共存を図るとともに、快適な暮らしやすい社会の構築に向けて主体的に行動する。

6. 政治や行政との関係

政治や行政との健全かつ正常な関係の維持・構築に努める。

7. 反社会的勢力への対応

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは、一切の関係を遮断し、違法・不当な要求には応じない。

8. 人権の尊重

社会の人々、従業員を個として尊重し、企業活動において一切の差別を行わない。

9. 働きがいのある職場環境

従業員にとって魅力に富み、安全で働きがいのある職場を提供する。

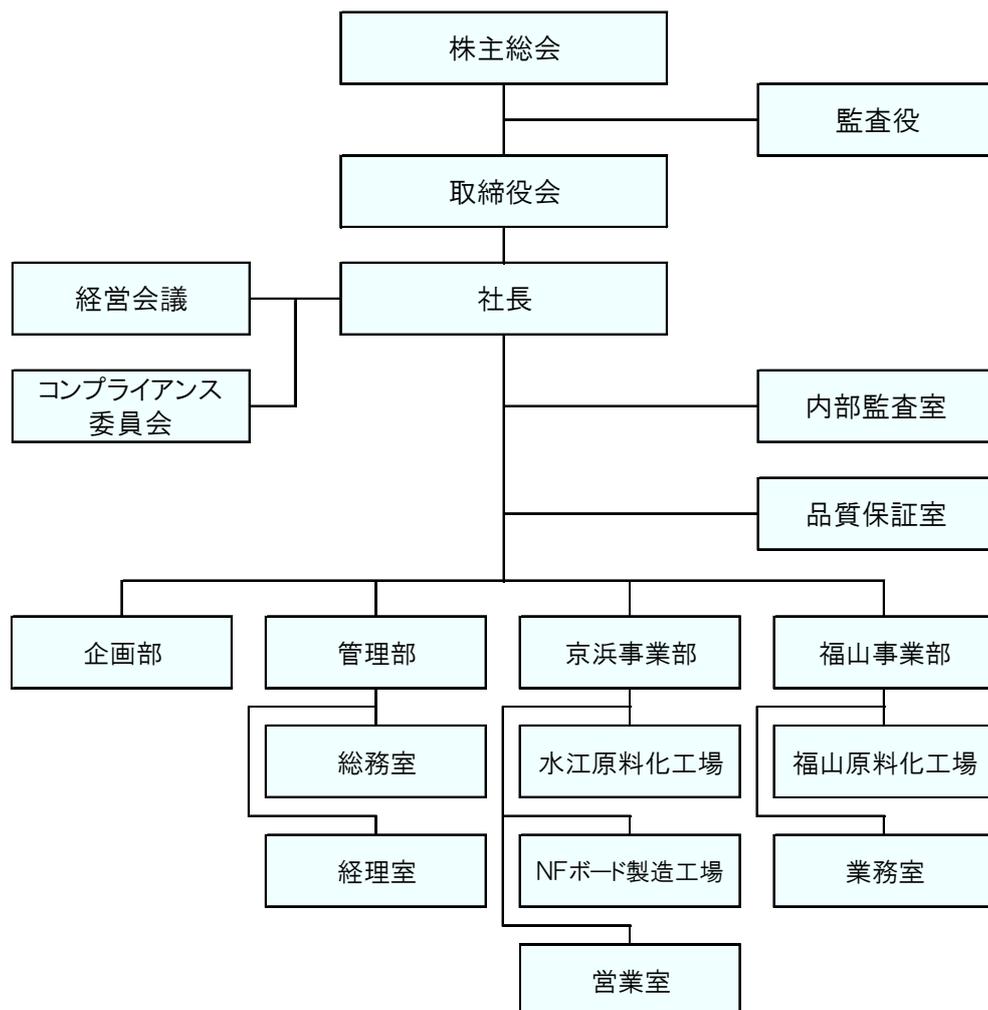
10. 法令の遵守

法令を遵守し、公正で自由な競争に心がけ、適法な事業活動を行うとともに、健全な商慣習に則り、誠実に行動する。

コーポレートマネジメント

経営体制

スリムな経営体制を構築し、効率的に事業推進することで、競争力の強化と収益力の拡大を図っています。



内部統制

内部統制体制は、取締役会規則・経営会議規則などの会議規程、組織・業務規程の制定や、企業倫理ホットラインの設置などによって整備されています。企業価値を持続的に向上するため、整備・運用状況について定期的に確認し、改善に努めています。

契約管理・環境管理・法令遵守状況などの業務プロセスについて、定期的な自己チェックを実施するとともに、内部監査室による監査を実施しています。

■ CSRマネジメント

社会を構成する一員としての企業の責任を自覚し、より良い社会の構築に向けて企業の社会的責任（CSR）を果たすべく、取り組みを強化しています。

▶ コンプライアンス（法令遵守）の徹底

CSRの基礎をなす「コンプライアンス（法令遵守）」を経営の最重要課題の一つとして位置づけ、社長をリーダーとするコンプライアンス委員会を開催し、以下の審議や情報交換を行うとともに、諸施策を実施しています。

- ・ コンプライアンス基本方針の審議・決定
- ・ コンプライアンス課題と対策の検討・実施
- ・ コンプライアンス案件の紹介と社内での周知徹底

▶ 企業倫理ホットラインの運用

コンプライアンスにかかわる重要情報が現場から経営トップ（社長）に迅速かつ正確に伝わるよう「企業倫理ホットライン」を設置しています。ホットラインの運用にあたっては、通報・相談者の保護に関する規則を定めています。

■ リスクマネジメント

事業を取り巻くあらゆるリスクを予防し、緊急事態が起こった際にも事業を継続していけるよう、リスクマネジメントに取り組んでいます。

全社業務のリスクは、内部監査室が中心となって統括し管理しています。多様化する社会動向に対応するため、情報の収集・分析などにも注力しています。

各工場では生産業務上のリスクを洗い出し、評価・対応策を検討し、実行状況を管理しています。重要リスクを毎年見直し、各年度で重点課題を設定して継続的な改善を進めています。また、工場間の情報交換や情報共有により、全社一体のマネジメントを推進しています。

大規模災害への対応として、安否確認体制の構築・備蓄品の整備・重要継続業務リストの作成などを進め、対策の強化を図っています。

■ 環境マネジメント

■ 基本方針・行動指針

当社は容器包装プラスチックリサイクルを事業としており、事業自体が循環型社会形成に資するものとして、環境マネジメントに取り組んでいます。基本方針・行動指針を以下のように定め、トップレベルの環境配慮型企業をめざしています。

基本方針

JFEプラリソース株式会社は、容器包装プラスチックリサイクル事業を通じて循環型社会の実現に貢献します。環境保全の重要性を認識し、事業活動に伴う環境負荷をできるだけ少なくするために、環境マネジメントシステムを導入し、環境方針を全従業員に周知するとともに、全社一丸となって積極的に環境保全活動に取り組みます。

行動指針

- (1) 適用される関連法規及び規制を遵守します。
- (2) 環境マネジメントシステムを構築し、維持し、継続的に改善します。
- (3) 具体的には、以下の事項に取り組みます。
 - ①省エネ及びプラスチックリサイクル推進による
二酸化炭素排出量削減
 - ②用水使用量の削減等による省資源
 - ③リサイクル率向上等による産業廃棄物削減
 - ④工場見学受入・環境展への参加等を通じて、
地域環境教育への積極的取組み
 - ⑤グリーン購入推進

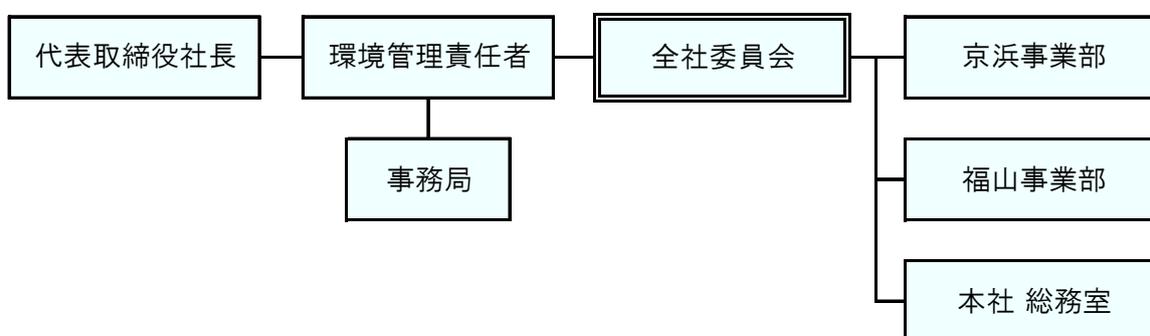
JFEプラリソース株式会社
代表取締役社長

田村 望

■ 環境マネジメント体制

環境に関わる事項を遵守することはもちろんのこと、環境と調和した事業活動を展開することが、企業が存続していくための基本要件と認識しています。

環境マネジメントシステムを導入し、全員参加型の環境マネジメント活動を進めています。代表取締役社長が環境管理責任者を任命し、環境管理責任者は各部門の活動を統括しています。各部門では、部署長（本社は総務室長）が自身の部門を統括し、上位部門に対して責任を負う体制としています。



代表取締役社長	環境方針を決定する。 活動の総合評価と方針の見直しを行う。 環境管理責任者、その他の責任者を任命する。
環境管理責任者	全社委員会を運営する。 本社総務室長及び京浜事業部長、福山事業部長、事務局を指揮し、活動を統括する。
事務局	環境管理責任者を補佐し、活動実務を中心的に行う。
全社委員会	活動事項の決定、報告を行う。 代表取締役社長、環境管理責任者、京浜事業部長、福山事業部長、本社総務室長及び事務局で構成し、環境管理責任者が召集する。
京浜事業部長	全社委員会の決定事項に基づき、京浜事業部を統括する。
福山事業部長	全社委員会の決定事項に基づき、福山事業部を統括する。
本社総務室長	全社委員会の決定事項に基づき、本社部門を統括する。

■ 環境認証

➤ 水江原料化工場

JFEスチール株式会社東日本製鉄所（京浜地区）とともに、ISO14001による環境マネジメントシステムを運用しています。立地する東日本製鉄所（京浜地区）一体で取り組むことにより、地域の環境パフォーマンスの向上を推進しています。



➤ NF ボード製造工場、福山原料化工場

省エネルギーや省資源など、事業活動に伴う環境負荷の低減について、「エコアクション21」による活動を推進しています。

環境への負荷・取組みの自己チェック、環境方針・環境目標・活動計画の策定、計画の実施、取組の評価、見直しをガイドラインに沿って継続的に実施しています。より実効ある成果を得るべく、会社経営から個々の従業員の取り組みまでを統合して、活動しています。



■ 安全衛生マネジメント

■ 活動方針

従業員の安全と健康の確保は、企業の基盤を成すものです。「安全は全てに優先する」の基本理念のもと、不断の努力を継続しています。各部署（工場）は、全社方針に基づき、特性に応じた具体的な管理・活動を推進しています。

2015年 安全衛生防災活動方針

1. 基本理念

『安全は全てに優先する』

2. 活動目標

『各職場 完全無災害 の達成』

3. スローガン

『異常時は必ず止めてKY実施』

『ちょっと待て！行動前の深呼吸』

4. 活動方針

- (1) SK1活動を通じてワースト5活動を改善し
『安全で快適な職場を作る』
- (2) 明るい挨拶・指差呼称・5S徹底を通して
『明るくメリハリのあるきれいな職場作り』
- (3) 発災リスク管理活動の再強化と
防災教育&訓練実施による防災基盤の強化
『全員が消火器・消火栓を正しく取扱える職場』
- (4) 心と体の健康づくりを推進して
『健康で思いやりの心が通う職場作り』

JFEプラリソース株式会社



社会活動

■ お客様・お取引先様とともに

■ 品質管理、CS（お客様満足）向上

生産部門から管理部門まで技術標準を制定し、徹底した品質マネジメントを推進しています。お客様とのコミュニケーションを積極的に図り、ご意見・ご要望に真摯に対応して、課題を解決することで、お客様満足の向上をめざしています。

■ 社会とのコミュニケーション

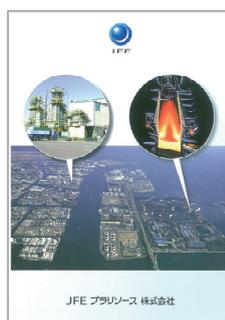
ホームページを2009年の会社発足以来、開設しています。

➤ <http://www.jfe-plr.co.jp/>

会社概要、事業案内、主要製品（NFボード®・ペレット）の紹介、環境への取組み等を掲載しています。事業概要や施設概要を分かり易く説明し、容器包装プラスチックのリサイクルをご理解いただけるよう努めています。リサイクル実績や施設の維持管理記録を開示・定期更新し、環境と調和した事業活動の推進に取り組んでいます。また、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションツールとして、資料請求やお問合わせの窓口を設けています。

年一度発行の本紙電子版もホームページ内でご案内しています。

パンフレットにつきましては、事業案内のほかリサイクル手法や製品紹介、海外のお客様には英語版をご用意しております。



■ 訪問されたお客様に対して

お客様ルームを設置し、原料から製品までの製造フローパネル、当社製品、当社製品を利用した商品を展示しています。商品開発室も公開し、製品品質向上への取り組みを紹介し、更なる情報公開に努めています。



京浜 お客様ルーム

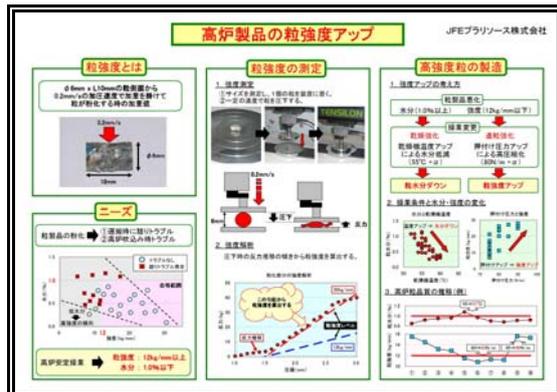


福山 お客様ルーム



福山 商品開発室

製品品質向上への取り組み



■ 地域社会の皆さまとともに

■ 見学の受け入れ

地域社会に開かれた会社をめざして、一般市民の皆さまの見学を積極的に受け入れています。ビデオ・パンフレットを用いた概要説明、お客様ルームでの製品紹介、工場ラインの見学を通して、市民の皆さまに密着している会社事業をご案内しています。

中央官庁・市町村の行政機関や海外の方々にも、視察いただきました。

2014 年度見学実績

	件数	人数
一般	10	288
企業・団体	12	122
中央官庁	5	8
市町村	17	134
海外	1	11
計	45	563



■ 啓発活動

各種イベントへの参加、一般市民の皆さまを対象とした講演やプレゼンテーションに取り組み、当社事業のみならず、「容器包装プラスチックのリサイクル」に対する理解を深めていただくよう努めています。

行政機関・関連団体の行う環境啓発活動にも積極的に賛同・協力しています。



○ 「川崎国際環境技術展 2015」
プレゼンテーション風景



○ 「川崎市グリーンイノベーション」
プロモーションDVDインタビュー協力

行政との連携

行事への参画

容器包装プラスチックリサイクルを中心に、環境活動全般について、市町村等の開催する諸行事に積極的に参加しました。

期 日	行 事
2014年 6月	<p>ふくやまエコトライアスロン（福山市）</p> <p>環境にやさしいライフスタイルの定着を目的として、年間を通して取り組みが実践できるよう福山市が市民・事業者・団体に広く呼びかけ、6～3月までの9ヶ月間実施。</p> <p>当社は協賛するとともに、福山事業部の全員で参加しました。</p> <p>また、本年は敷地内花壇にゴーヤを植樹し「緑のカーテンフォトコンテスト」に応募しました。</p>  
2014年 12月	<p>エコプロダクツ2014（社団法人産業環境管理協会・日本経済新聞社）</p>  <p>日本最大級の環境展示会。「見つけよう！未来を変えるエコの知恵」が今年のテーマ。3日間（12月11～13日）の開催で、約162千人が来場。</p> <p>当社は川崎市に協賛し、同市のブースにて出展しました。低CO2川崎ブランド選定の「NFボード®」について発表し、リサイクルの見える化をPRしました。</p>  <p>「(C) エコプロダクツ 2014」</p>

期 日	行 事
2015年 2月	<p>川崎国際環境技術展2015（川崎市）</p> <p>「今、かわさきから世界に伝えたい、環境技術。」がテーマ。 環境に配慮した技術やノウハウを幅広く集め、ビジネスマッチングの活性化を目指し川崎市が開催。2日間（2月5～6日）の開催で、約11千人が来場。</p> <p>当社は環境改善技術関連分野にJFEグループとして出展し、畜舎模型などを用いて分かり易いプレゼンテーションを行いました。</p> 
2015年 3月	<p>川崎市との政策懇談会（NPO法人産業・環境創造リエゾンセンター）</p> <p>産学公民の連携による臨海部の環境創造と産業活性化を目指す活動の一環として年2回開催され、臨海部に係る最新の動向や市の政策課題等について、川崎市関係局幹部との意見交換を行う懇談会。</p> <p>当社は「容器包装プラスチックのリサイクル」についてその意義や仕組み、当社の事業内容について発表しました。</p> 

2014年8月、豪雨による広島土砂災害により、被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

当社は地元企業として、また広島市の容器包装プラスチックをリサイクルする事業者として支援の一助となりますよう義援金を寄付しました。

■ 川崎市「グリーンイノベーション」推進活動への協力

川崎市は、「～川崎から世界へ～」をスローガンに市の強みと特徴である環境技術・産業を活かした取組をより一層発展・拡大することで次世代の川崎の活力を生み出すとともに、快適な市民生活が維持・向上し続ける持続可能な社会を創造するために、「グリーンイノベーション」を推進しています。中でも先進的な取組である「低 CO2 川崎ブランド」・「川崎メカニズム」について、効果的な情報発信及び国内外におけるプレゼンスの向上を目指すためPR映像を作成しました。

当社は「NFボード®」が「低 CO2 川崎ブランド」・「川崎メカニズム」ともに同市より認定・認証されており、事業者インタビューに出演しています。

映像の中では、市による認定・認証制度により川崎市以外でも多く使用されている当社製品に対し第三者的な評価が加わることで「説得力のあるPR効果」が期待されることや、当社のリサイクル事業を推進していくことが同市の推進する地球規模での経済・社会のグリーン化活動に対する最大の貢献であることをコメントしました。

このPR映像は各種展示会などで放映される他、川崎市に視察等で訪れた他都市・海外の自治体関係者にも配布されています。加えて認定・認証事業者のプロモーション活動にも使用可能であり、当社は積極的に活用し社会への情報発信に繋げています。

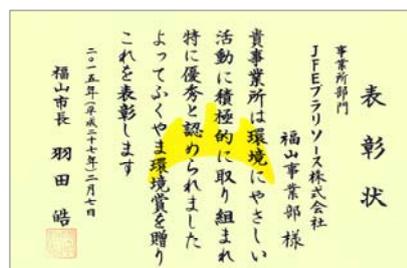


■ 社外からの評価

■ 2014年度 ふくやま環境賞

当社福山事業部は、福山市主催「2014年度ふくやま環境賞」を事業所部門において受賞いたしました。

社屋に太陽光発電を設置する等、市民へのリサイクルの「見える化」の推進及び環境イベントへの積極的参加等、資源循環型社会の構築に対する事業活動が評価されました。今後も活動をよりいっそう発展させて参ります。



■ NFボード®

当社独自開発の「NFボード®」は、一般家庭から排出された容器包装プラスチックを主原料とするリサイクル製品であることに加え、優れた耐久性(耐衝撃性、耐磨耗性、耐水性、耐薬品性)・清潔性・保温性・防音性・自由な加工性(切断、穴開け、釘打ちが可能)・バージン材と同等の扱いやすさが評価されています。

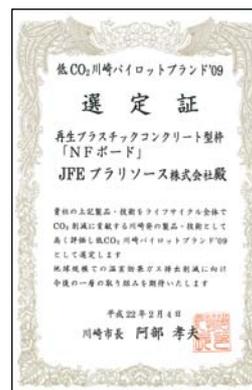
1) 川崎メカニズム認証

所掌 : 川崎市
製品名称 : 「NFボード®」
認証番号 : 25-02
認証年月日 : 2014年1月21日



2) 低CO₂川崎パイロットブランド'09 選定

所掌 : 川崎市
認定製品 : 再生プラスチックコンクリート型枠
「NFボード」
認定年月 : 2010年2月



3) 建設技術審査証明

所掌 : 一般財団法人日本建築センター
技術名称 : 再生型枠「NFボード」
認定番号 : BCJ-審査証明-210
認定期間 : 2013年9月26日~2018年9月25日



4) NETIS (新技術情報提供システム)

所掌 : 国土交通省
新技術名称 : NFボード
登録番号 : KT-090078
登録日 : 2010年3月26日



5) グリーン購入

所掌 : 環境省
分類 : コンクリート用型枠
名称 : NFボード
施工日 : 2008年3月10日



2014年9月5日 掲示板用途が追加されました。

6) エコマーク

所掌 : 公益財団法人日本環境協会
商品名 : NFボード
認定番号 : 10 118 027
認定期間 : 2010年11月25日~2015年8月31日
類型名 : No.118「プラスチック製品 Ver.2.4」



7) 商標登録

所掌 : 特許庁
商標 : NFボード
登録番号 : 第 5481636 号
登録日 : 2012年3月30日



■ 従業員とともに ～ 安全衛生活動 ～

■ 労働安全衛生

従業員の安全と健康の確保は、企業の基盤を成すものです。「安全は全てに優先する」を基本理念に置き、「安全は『思いやり』により成される」とのトップの考えのもと継続的な安全活動を行っています。会社による従業員への思いやりは速やかな労働環境の改善に繋がります。従業員は自分を思いやり、他人を思いやることです。自分への思いやりは危険行動を回避させ、他人(仲間)への思いやりは声掛け行動を呼び起こします。

同時に各部署(工場)での特性に応じた具体的な安全活動が重要です。活動目標「各職場 完全無災害 の達成」を目指し、職場ごとに演練及びヒヤリハット申告などのボトムアップ活動を推進しています。

労働空間において労働災害・疾病のリスクを可能な限り低減していくため会社と従業員が一致協力し、様々な活動に取り組んでいます。

■ 演練発表

演練とは本番さながらの演習を行うことです。職場ごとに自主的に危険作業や作業の効率性はもちろんのこと環境影響についても考え、対策・改善活動を行った成果を安全衛生委員会などで実技とともに発表します。



■ 安全大会

日々の活動の成果は、年度の終わりに全社安全大会で事例発表し、共有及び水平展開を図っています。リスクレベルの高い「ワースト5作業」対策を始め、年間を通して取り組んだ作業安全・環境改善活動の成果を発表しています。同時に、京浜・福山地区の交流の場としても活用しています。



◇2015年3月27日

■ 防災への取り組み

➤ 防災管理

防災は企業の生命線であり、社会に対して責務を負っているものです。発災リスク管理を行い、重点管理すべき項目を洗い出し、日々の防災点検を実施しています。緊急対応を技術標準に規定し、定期的な教育・訓練・反省を実施し、防災管理の充実を推進しています。

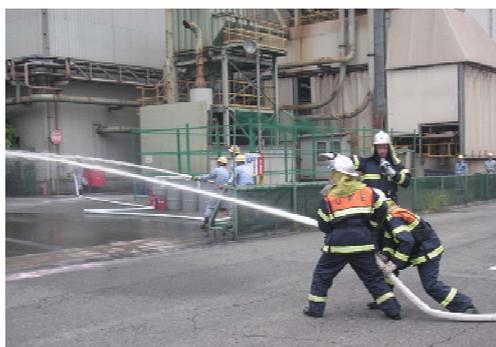


➤ 消防訓練

当社の扱うプラスチックは可燃物であるため、火災予防には細心の注意を払うとともに火災発生時には速やかな初期消火活動が重要となります。そのため消防署や製鉄所消防隊との合同訓練を定期的実施しています。

◇京浜地区 2014年5月23日

◇福山地区 2014年5月28日



➤ 大規模地震想定訓練

大規模災害発生時の措置・連絡対応・避難の訓練を実施しました。本年は地震発生直後の第一次避難に加え津波発生を想定した第二次避難訓練を行い、全社一斉に携帯電話を使用した安否確認訓練も行いました。

◇全社 2014年9月19日

2014年9月26日



➤ 社外競技会への参加

市消防署の主催する消防競技会に毎年参加しています。参加者は毎回交替し、技能向上に努めています。

◇福山地区 2014年10月7日



■ 従業員とともに ～ 安全な環境づくり ～

当社は年間を通じ、完全無災害達成を目指し安全活動を行っており従業員の安全意識は年々レベルアップしています。更なる安全確保のためヒューマンエラー防止にも注力しています。

▶ ヒューマンエラーとは

人為的過誤や失敗のこと。認知・判断・行動などにおいてミスをしてしまうこと。

JIS Z8115:2000 では、「意図しない結果を生じる人間の行為」と規定している。

「人間である以上、必ずエラー（失敗）は起こりうる」との観点に基づき、その対策を講じる必要があるとされている。

■ ヒューマンエラー防止への取り組み

ヒューマンエラーの防止には様々なアプローチの方法がある中、本年は視覚に訴える注意喚起とともに、作業者が誤った操作をしても安全を確保できるようにあらかじめ対策を講じておくというフルプールの考え方に沿い対策を行いました。

○フォークリフト事故防止

フォークリフト運転は工場操業に不可欠かつ職場全員が携わる作業です。日常的であるため「慣れ」や「つつい」といった気持ちの起こりやすい作業のひとつでもあります。制限速度遵守は安全運転の原点です。周知徹底のため工場内に標識を設置し、車両本体にも明示しました。加えて、全車両に速度制限装置を取り付けました。これらの取り組みの結果、フォークリフト事故ゼロ件を達成することができました。



○巻き込まれ事故防止

設備の点検窓などを開く際には、巻き込まれ事故のリスクが潜んでいます。「少しだけなら」「急いでいるから」という判断ミスを防ぐため、開放時は設備停止&電源オフの条件設定を確実に実施するよう、開口部には赤ペンキ塗装と注意喚起表示を実施しました。視覚への訴求力を高めることにより安全性の向上を図りました。



産業医講話・指導

月例の安全衛生委員会では、職場の安全衛生管理を中心とした指導や個人の健康管理への取り組み方まで、幅広いテーマについて産業医による講話を受けています。同時に産業医も参加する職場パトロールでは医療従事者の視点によるアドバイスを受けるなど、より安全で適切な社員の「心と体の健康づくり」のための施策を実施しています。

4月	「喫煙の関連話題について」	10月	「怪我の対処と蜂窩織炎について」 ホウカシキエン
5月	「熱中症対策について」	11月	「お酒と脂質の話」
6月	「運動をしよう」	12月	「健康計画を立てましょう」
7月	「血圧について」	1月	「花粉症について」
8月	「2014年度熱中症パトロール報告」	2月	「睡眠時無呼吸症候群について」
9月	「メンタルヘルスアンケート結果」	3月	「受動喫煙防止法と法改正」



メンタルヘルスへの取り組み

従業員の安全と健康を確保するため、「思いやりの心が通うメンタルヘルスケア」に取り組んでいます。産業医の助言を得ながら、年間スケジュール・達成目標を定め、専門機関とも連携し内容の充実を図っています。従業員のストレスチェックテストは毎年実施し、個人のストレスプロフィールに加え、職場ごとの特性や職務によるストレスリスクについても評価しています。心の健康の保持や増進のためのケア活動に重点を置きながら、ひとりひとりが仲間の不調やサインに気付くことができる職場づくりを目指しています。



■ 職場活性化No.1活動

設備を動かし、製品・品質をつくり出すのは「人」です。ものづくりを支える「人」を育成するため、職場活性化No.1活動（SK1活動）を推進しています。

2011年度から2013年度までの三年間で基礎固めが完了し、2014年度は更なる底上げを目指しました。

➤ 活動方針

スローガン：活発なコミュニケーションで広げよう『人の輪』『知恵の輪』『改善の輪』
基本方針：現状課題を徹底議論し問題解決能力の向上をアップさせる。

「工夫と努力の積み重ねで奇跡を産み」皆で達成感・満足感を体験する。

➤ 活動実績

本年のテーマ登録件数は18件でした。うち半数が品質・能率向上を目的としたものです。特筆すべきは、これまで産業廃棄物として扱っていたものの量を大幅に削減するといった多大な工夫と労力を要する課題に意欲的に取り組むグループの増加でした。また、環境保全をテーマにおいた活動では職場での環境意識の定着から高まりへと進化していることを実感できる取り組みがなされました。

➤ 総括

基礎固めから次のステージへと活動を発展させていくにあたり、更なるコミュニケーション活性化に注力した1年でした。製造部門では、工場の効率操業を目指すオペレーターチームと工場の安定操業を守る設備保全チームが安全を柱とし協働しました。加えて営業部門の参加により製販一体の活動がなされました。また、事務局や管理者は活動が全社一丸となり進められるよう支援しました。

➤ 成果発表会

一年間の活動の成果をグループごとに発表しました。達成感やグループ間での刺激を糧とし活動の継続・発展に繋がります。

◇2015年2月13日



■ B E S T 活動

2013～2015年度の3年計画で取り組みを開始した「日本一安全で快適な職場づくり」を目指す『BEST活動』は2年目を迎えました。

➤ BESTとは？

BEM

Background Encouraging Music を事務所・工場に適切に流すことにより、心にゆとりと安定感を持たせ、職場の活性化と安全性を増進します。

Skill up

主要設備毎に、作業・安全のポイントを表示した「スキルアップボード」を設置し、技術技能をレベルアップ、作業注意点を危険予知（KY）します。

Tool box

主要設備毎に、作業に必要なツール（工具）をビジュアルに設置管理して、作業効率アップと安全＆快適な作業環境を確保します。

➤ 2014年度の成果

「完全無災害への挑戦」を年度開始と同時に宣言し、月ごとにテーマを掲げ『BEST活動』をより深化・発展させるべく活動に取り組みました。

とりわけ熱中症発生リスクの高い夏季や火災の起きやすい年末年始は特別安全月間とし、社内で募集・選定された安全標語を手書きした幟（のぼり）を立てるなど相互注意活動を強化しました。安全性増進活動では、路上への停止線表示や設備の注意箇所の色彩表示により指差呼称が徹底されるなど危険予知環境の充実を図りました。加えて管理者は三現主義（現場・現物・現実の重視）により、職場全員での更なる危険意識の共有化を確立しました。また、始業時の安全唱和・作業前の深呼吸・一仕事一片付けの習慣化がなされ不安全行動の防止を図ることができました。このような活動により、完全無災害を達成しました。





環境活動

■ 環境経営への取り組み

■ 環境経営

当社は容器包装プラスチックリサイクル事業を通じて、循環型社会づくりに努めています。「基本方針・行動指針」を定め、全員参加の環境マネジメント活動を継続展開しています。リサイクルを業としていることを念頭に、個々の従業員の環境意識を高め、トップレベルの環境配慮型企業を目指して、実効ある活動を推進しています。

■ 地域との融和をめざして

「私達は環境と調和した社会の構築に貢献します」の看板を工場入口に設置し、来訪者に当社の方針を宣言しています。

また、敷地内の緑地の整備や周辺の公道清掃活動を定期的に行っています。本年は夏季には休憩所花壇にゴーヤで緑のカーテンを栽培し、冬季には「ふくやま環境賞」の副賞であるバラの植樹を行いました。環境に優しい企業を目指し、地域の皆さまとともに環境美化活動を推進しています。

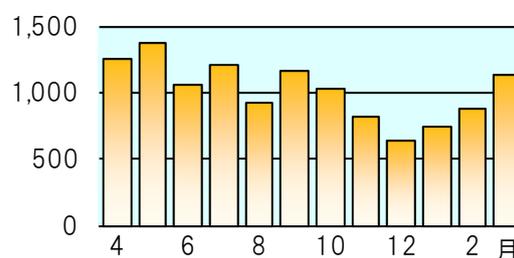


■ ソーラー発電

福山地区に 12kW のソーラー発電設備を設置し、2013 年 8 月から本格発電（一般家庭約 4 世帯分）を開始しました。

工場所在地は「福山市次世代エネルギーパーク」に認定され、中国電力(株)のメガソーラー（3MW）を筆頭に、太陽光発電設備が集積しています。当社も登録関連施設として、地域の環境パフォーマンス向上の一助となるべく、活動しています。

○ 2014年度発電量 (kWh/月)



環境コミュニケーション

環境情報開示

工場ごとに管理値・目標値を定め、環境負荷の低減、エネルギー消費・資源消費の低減に努めています。主要データは、毎月評価し課題を抽出することで、次月の活動に繋げています。また、自社ホームページに「施設の維持管理記録」として公表し、毎月更新しています。

NFボード製造工場・福山原料化工場の取り組みはエコアクション21環境活動レポートで、目標に対する達成度などを公表しています。

○ ホームページ「施設の維持管理記録」

目的	区分	項目	単位	管理値	3月		測定頻度	備考		
					3月	3月				
水江	公害防止	①大気(1系)	ばいじん	g/m ³ N	0.10以下	0.002	3ヶ月毎 (6、9、12、3月)	ライン毎		
			硫酸酸化物	m ³ N/h	1.45以下	0.10				
			窒素酸化物	ppm	230以下	15				
		①大気(2系)	ばいじん	g/m ³ N	0.10以下	0.003				
			硫酸酸化物	m ³ N/h	1.45以下	0.01				
			窒素酸化物	ppm	230以下	1				
		②側溝滞留水	pH	-	5.8~8.6	7.9				
			COD	mg/L	130以下	4.2				
		③臭気	敷地境界	-	25以下	20				
			ペール置場	-	75以下	69				
	④振動	敷地境界	dB	60以下	45					
		敷地境界	dB	75以下	71					
	廃棄物管理	⑥	⑥プラ廃棄物発生量	kg/t	200以下	140	工場全体			
			⑦プラ廃棄物熱利用効率	%	80以上	80				
			⑧汚泥排出量	kg/t	40以下	27				
	環境負荷管理	⑨	⑨CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /t	390以下	255		毎月		
⑩消泡剤			kg/t	3.9以下	2.2					
化学物質管理	⑪	⑪油脂	kg/t	0.10以下	0.10					
		⑫電力	kWh/t	600以下	382					
用役管理	⑬	⑬Cガス	m ³ N/t	25以下	20					
		⑭蒸気	kg/t	48以下	7					
		⑮水資源	m ³ /t	0.30以下	0.20					
		⑯車両燃料	L/t	4.0以下	4.0					
福山	公害防止	①大気(1系)	ばいじん	g/m ³ N	0.03以下	0.0016			3ヶ月毎 (6、9、12、3月)	ライン毎
			硫酸酸化物	m ³ N/h	1.85以下	0.020				
			窒素酸化物	ppm	230以下	15				
		①大気(2系)	ばいじん	g/m ³ N	0.03以下	0.0020				
			硫酸酸化物	m ³ N/h	1.85以下	0.016				
			窒素酸化物	ppm	230以下	15				
		②側溝滞留水	pH	-	5.5~9.0	7.1				
			COD	mg/L	130以下	20.0				
		③臭気	敷地境界	-	25以下	24				
			ペール置場	-	75以下	68				
	④振動	敷地境界	dB	60以下	36					
		敷地境界	dB	60以下	56					
	廃棄物管理	⑥	⑥プラ廃棄物発生量	kg/t	280以下	197	毎月			
			⑦プラ廃棄物熱利用効率	%	70以上	73				
			⑧汚泥排出量	kg/t	50以下	47				
	環境負荷管理	⑨	⑨CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /t	240以下	206				
⑩消泡剤			kg/t	3.5以下	2.6					
化学物質管理	⑪	⑪油脂	kg/t	0.20以下	0.11					
		⑫電力	kWh/t	400以下	351					
用役管理	⑬	⑬都市ガス	m ³ N/t	10以下	10.0					
		⑭蒸気	kg/t	-	0.0					
		⑮水資源	m ³ /t	0.30以下	0.19					
		⑯車両燃料	L/t	5.0以下	4.3					
⑯	軽油	L/t	5.0以下	4.3						
	ガソリン	L/t	0.10以下	0.04						

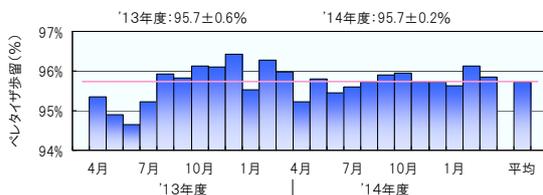
○ エコアクション21環境活動レポート

1) 実績まとめ

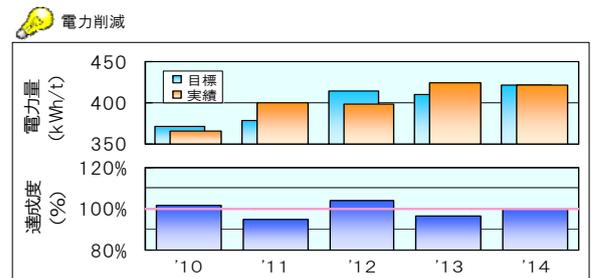
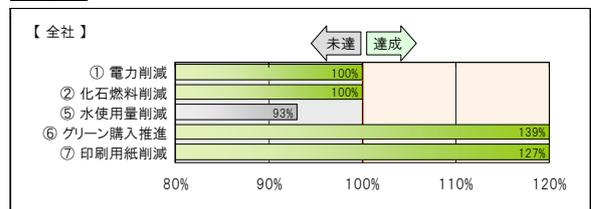
[1] CO₂排出量削減

項目	単位	目標	実績	達成度	評価	
CO ₂ 排出量削減	福山	kg-CO ₂ /t	309以下	308	100%	達成
	NF	kg-CO ₂ /t	291以下	288	101%	達成
	全社	kg-CO ₂ /t	302以下	301	100%	達成

①	電力削減 & CO ₂ 削減	福山	kWh/t	379以下	378	100%	達成
			kg-CO ₂ /t	276以下	275	100% <td>達成</td>	達成
		NF	kWh/t	513以下	506	101% <td>達成</td>	達成
			kg-CO ₂ /t	290以下	287	101% <td>達成</td>	達成
	全社	kWh/t	422以下	421	100% <td>達成</td>	達成	
				290以下	270	100% <td>達成</td>	達成



2) 達成度



■ 環境と調和した製品・サービス

■ 使用済プラスチックリサイクル一貫システムを通じて

当社は、一般家庭から排出された容器包装プラスチックを再資源化し、NFボード®を始めとする再生プラスチック製品を社会にリサイクルすることで、循環型社会形成を推進しています。

1) 一般家庭から分別排出

貴重な都市資源として、一般家庭から分別して排出されます。

2) 市町村の分別収集・選別・ベール化

市町村が分別収集し、異物を取り除く選別と圧縮ベール化を行います。

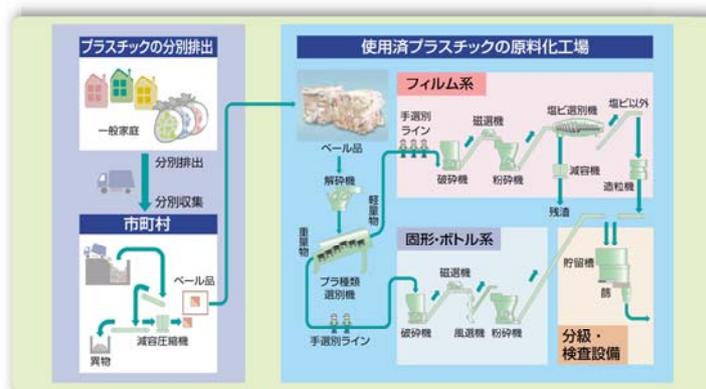
3) 当社で再資源化

当社でさらに選別/破碎/粉碎/塩ビ選別/洗浄/脱水/乾燥し、造粒/ペレット化して、再生プラスチック原料とします。

4) 社会にリサイクル

NFボード®などの再生プラスチック製品に加工され、社会にリサイクルします。

また、製鉄高炉で石炭代替原料として利用され、化石資源の節約に寄与します。

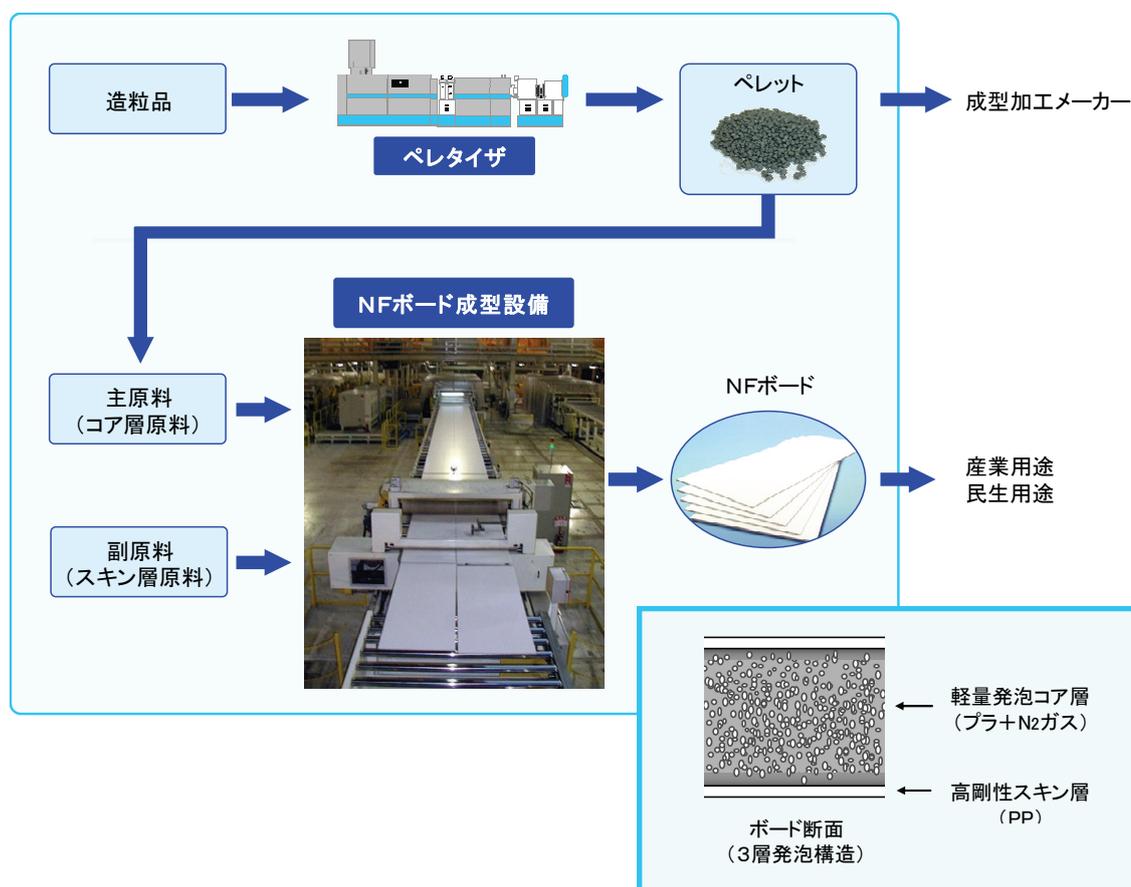


■ 製品を通じて

当社では、容器包装プラスチックの再資源化製品として、再生プラスチックボード「NFボード®」を独自開発しました。

容器包装プラスチックを再生使用した軽量発泡コア層と高剛性スキン層からなる3層構造で、優れた耐久性（耐衝撃性、耐磨耗性、耐水性、耐薬品性）・清潔性・保温性・防音性・自由な加工性（切断、穴開け、釘打ちが可能）・バージン材と同等の扱いやすさを有しています。

使用済ボードを回収しカスケードリサイクルするシステムも構築し、徹底した資源循環を進めています。



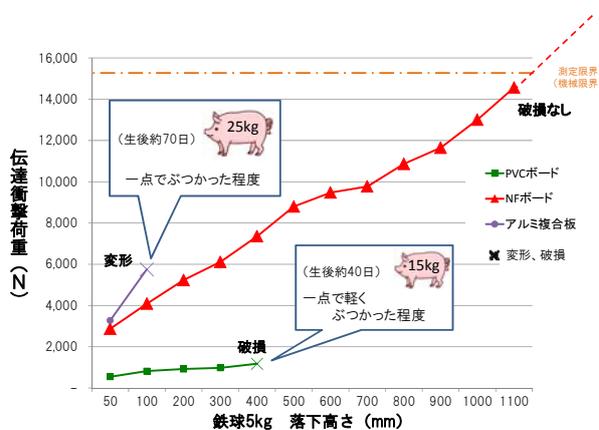
当社独自開発の「NFボード®」は、優れた耐衝撃性・清潔性が評価され、主に畜舎（豚・鶏）や厩舎の内壁材としてご利用いただいております。また、公共施設である首都高速道路の標識基礎型枠、警視庁の信号機材基礎型枠として認定されております。

更なる用途開発やご提案のため、「NFボード®」の性能比較試験を順次実施しています。お客様の様々なニーズにあらゆる場面でお応えすべくホームページや業界紙などを通じ、積極的に情報発信を行っています。



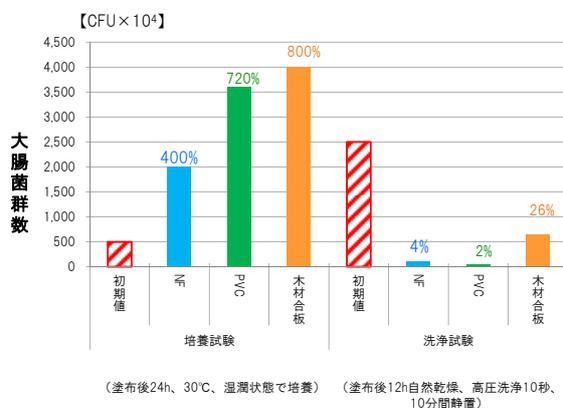
▶ 「NFボード®」性能比較試験

○落下垂直衝撃試験



衝撃を受けても、衝撃を和らげ、破損することなく残存することが期待できる。

○菌の増殖/洗浄試験



抗菌作用が見込め、洗浄によりきれいに蘇ることから清潔性を保つことが期待できる。

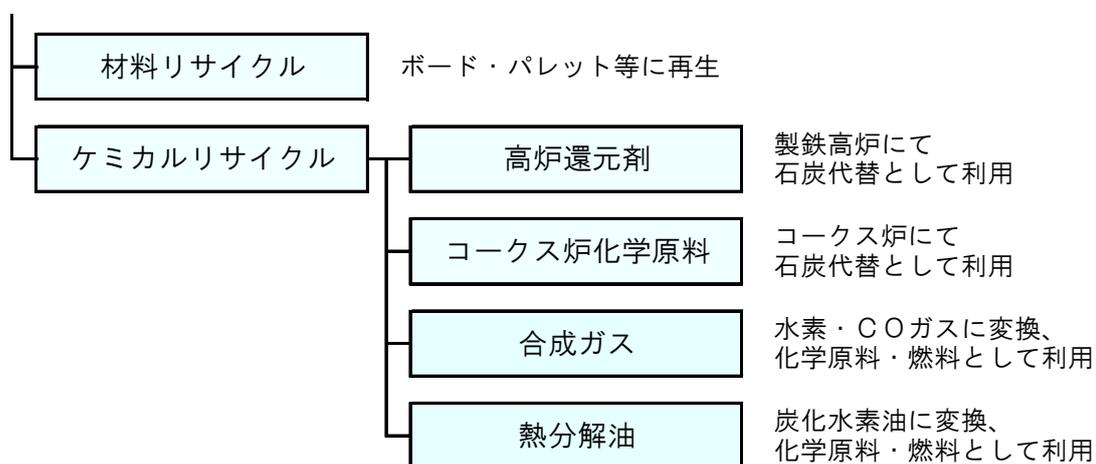
環境負荷の低減

容器包装プラスチックのリサイクル

一般家庭から排出される容器包装プラスチックのリサイクルは、「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律(容器包装リサイクル法)」に基づいています。

5つの手法が定められており、当社は、「高炉還元剤」、「コークス炉化学原料」、「材料リサイクル」の3手法を行っています。2000年4月の法施行と同時にリサイクルを開始し、以来、循環型社会形成に努めています。

○ 容器包装プラスチックのリサイクル手法

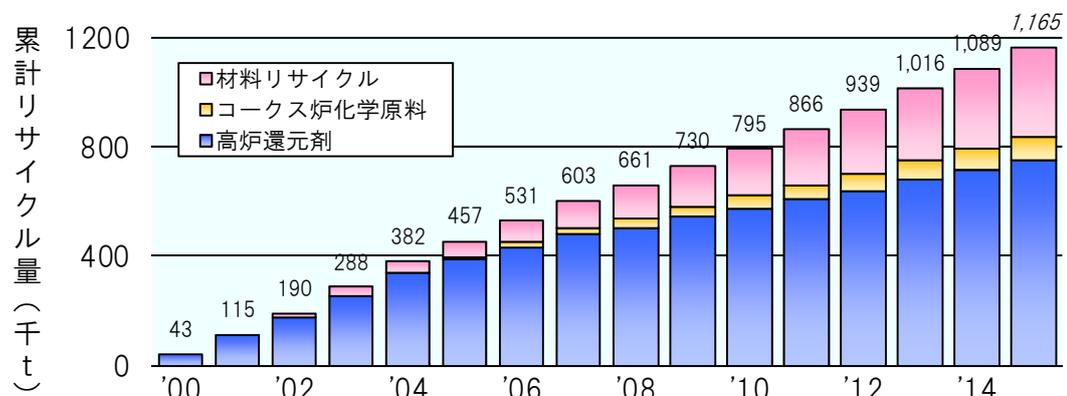
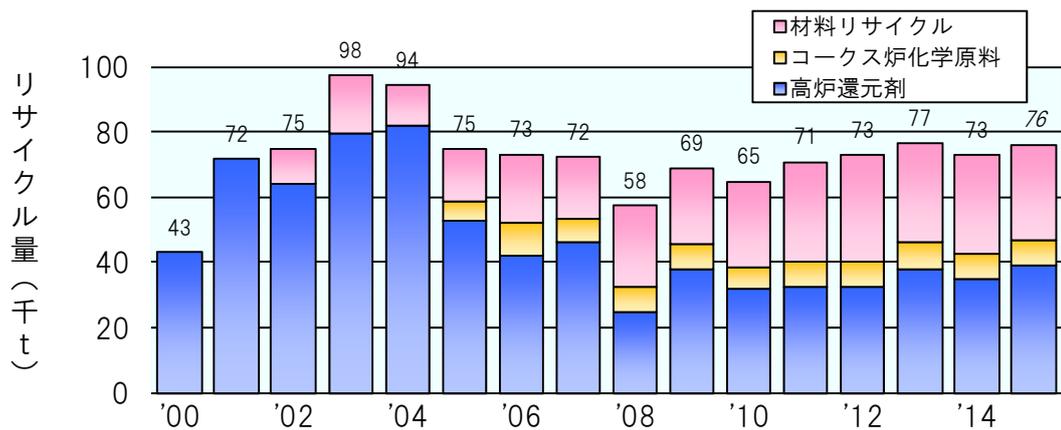


○ 稼働

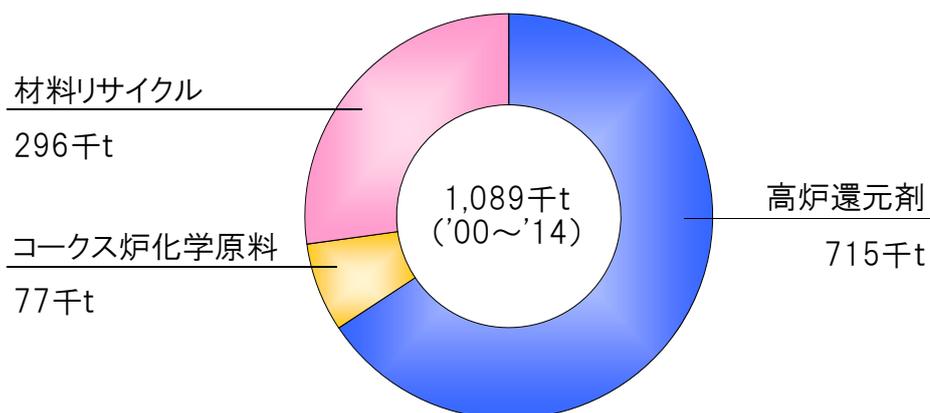
工場	手法	'00	'02	'04	'06	'08	'10	'12	'14	
水江 原料化工場	高炉	▶								15年
	コークス			▶						10年
	材料		▶							13年
福山 原料化工場	高炉	▶								15年
	材料			▶						9年

2000年度の事業開始以降、トータル1,089千tの容器包装プラスチックをリサイクルしてきました。これは、全国総量の約14%を占めています。

○ 容器包装プラスチックリサイクル量の推移



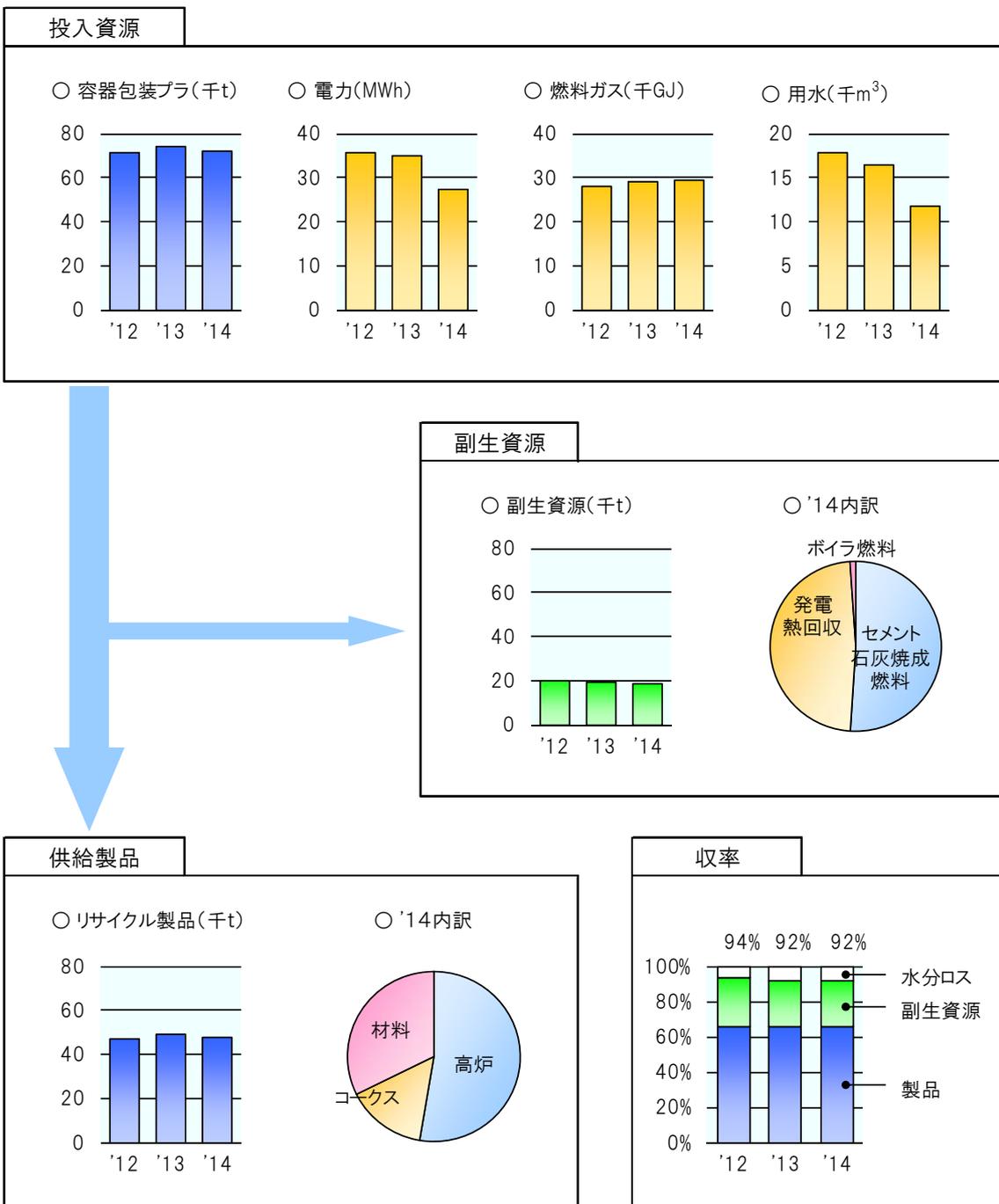
○ リサイクル手法の内訳



リサイクルのマテリアルバランス

一般家庭から排出された容器包装プラスチックを原料として、「高炉還元剤」、「コークス炉化学原料」、「材料リサイクル」のリサイクル製品を製造しています。

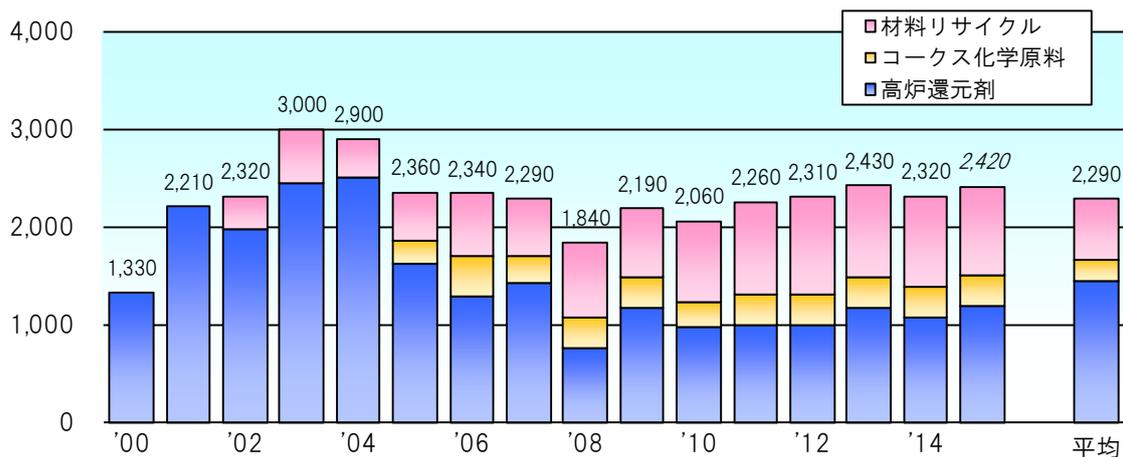
リサイクル製品の収率は約 65%です。25%強の副生資源は、セメント・石灰焼成燃料等に利用されています。両者を合わせた総合収率は 92~94%になり、水分ロス以外のほぼ全量が有効利用されています。



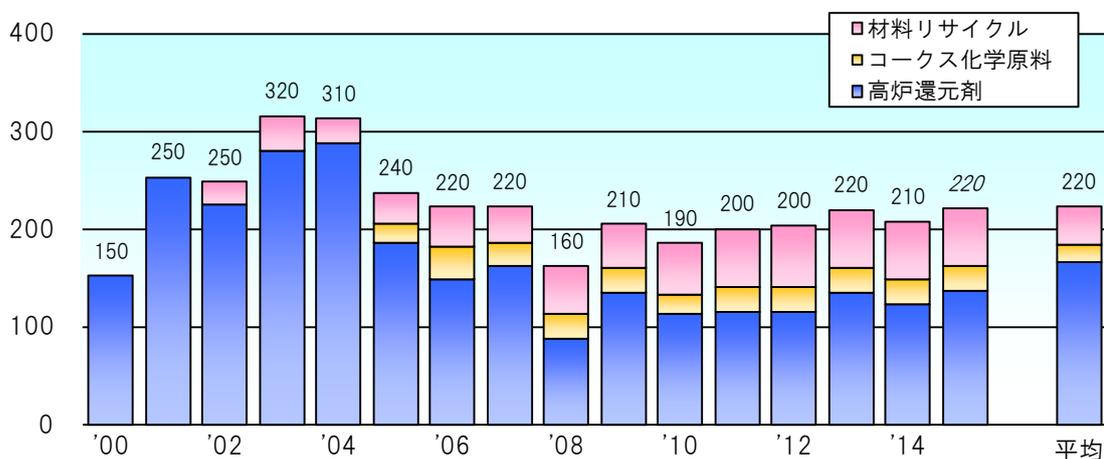
■ リサイクルによるエネルギー消費・CO₂排出の削減

公益財団法人日本容器包装リサイクル協会は、容器包装プラスチックリサイクルによるエネルギー消費・二酸化炭素排出等の環境負荷削減効果について評価し、「プラスチック製容器包装再商品化手法に関する環境負荷等の検討」（2007年6月）にまとめています。同報告の削減原単位を適用すると、当社のエネルギー消費削減効果・CO₂削減効果は以下のとおりです。エネルギー消費削減量は年間約2,300千GJ（一般家庭消費量の約6万世帯分）、CO₂削減量は年間約220千t（一般家庭排出量の約4万世帯分）で推移し、環境負荷削減に大きく寄与しています。

○ リサイクルによるエネルギー消費削減量（千GJ/年）



○ リサイクルによるCO₂削減量（千t/年）



■ リサイクルの高度化を目指して —M F C A（環境会計）手法を用いた評価—

当社のマテリアルバランスは、投入資源である容器包装プラスチックの約 65%がリサイクル製品、25%強が副生資源であり、残りは水分ロスです。

資源活用の点においては、リサイクル製品・副生資源ともに環境負荷低減を十分考慮しほぼ全量を社会に還元しています。

しかしながら、副生資源はリサイクル製品とは異なり利用（処分）先に処分コストを支払っており会社経営上の点においては、製品化ロスが 25%強存在していると言えます。会計上はマイナスの評価がなされ、負の製品と考えられます。

負の製品は本来のリサイクル製品（正の製品）と同じ製造工程を経て生まれます。このことより、正の製品にかかる製造コストと同等のコストが負の製品にもかかっているものと理解されます。

そこで、本年度より製品種別とかかるコストを明確にすべく M F C A 手法を取り入れ評価することを開始しました。

➤ M F C Aとは

マテリアル フロー・コスト アカウンティングの略。

マテリアル（原材料など）の物量とコストを製造工程ごとに算出する会計手法。

本方法を用いることにより、資源効率と経済効率をともに評価することができる環境会計です。

2011 年に I S O 14051（M F C A）として国際規格化されています。

➤ 目的

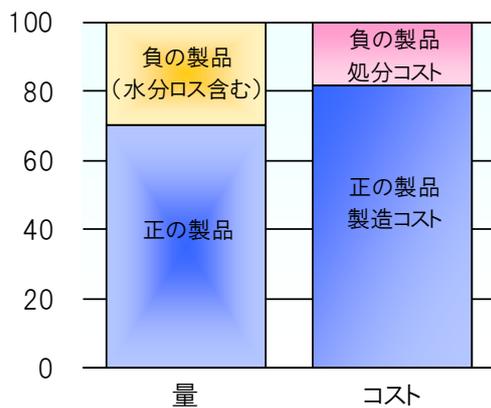
従来は、製品製造工程にかかるコストはリサイクル製品（正の製品）にのみかかるものとし、副生資源（負の製品）にかかるコストは処分コストとしていました。

新たに M F C A 手法を用いて、負の製品にかかる製造コストを正しく評価することにより、より有効となるコスト及び環境負荷低減活動に取り組みます。

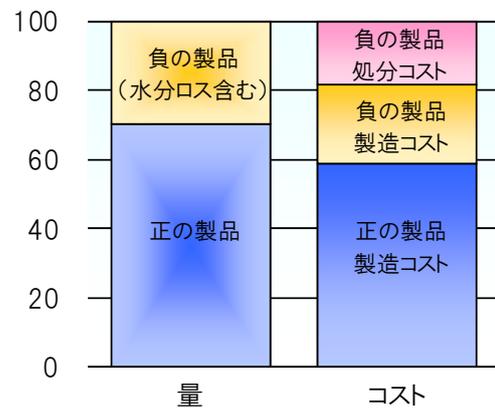
➤ 現状のマテリアル及びコストバランス解析と評価

従来の評価方法では、負の製品には「処分コスト」のみがかかっていると環境負荷に配慮しながらより安価な利用(処分)先を見出すことが重要であると考えていました。

○ 従来の評価方法 (%)



○ M F C Aによる評価 (%)



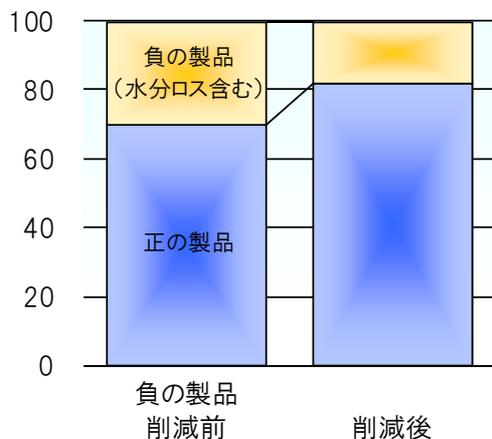
しかし、M F C Aによる評価では負の製品にも正の製品同様に「製造コスト」がかかっています。このことより、負の製品製造コストの削減こそが最重要課題であるということが分かりました。

➤ 負の製品の製造コスト削減のために

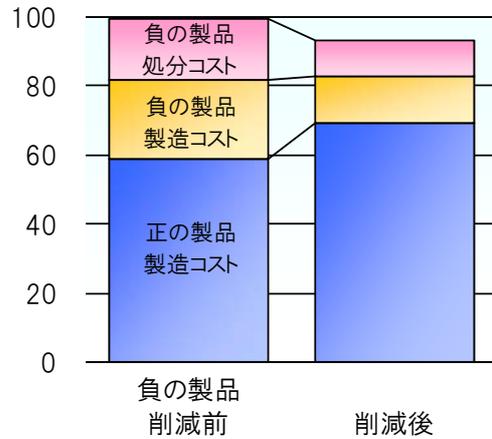
負の製品の「製造コスト」を削減することは、すなわち負の製品「量」を削減することです。負の製品量が減少すると負の製品「処分コスト」も減少します。

その結果、正の製品量は増加します。

○ マテリアルバランス (%)



○ コストバランス (%)

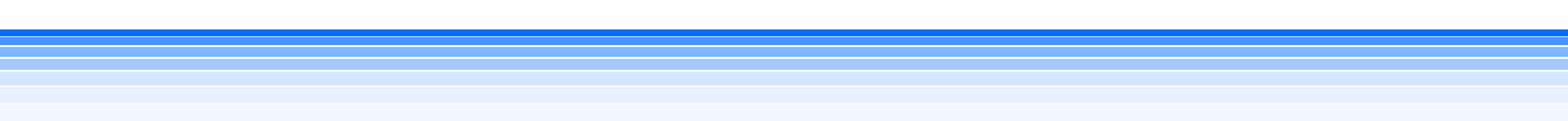


負の製品量を減少させることはトータルコストの減少にもつながります。

当社は、正の製品（格別品含む）の比率を高めることが環境に配慮した経営上の重要な課題であり、注力していきます。

JFE プラリソース株式会社は
プラスチック容器包装の
再商品化事業を通じて
資源循環型社会づくりに貢献します







JFE プラリソース 株式会社

本社・京浜事業部

〒210-0866 神奈川県川崎市川崎区水江町5番地1
TEL 044-299-5193 FAX 044-299-5328

福山事業部

〒721-0956 広島県福山市箕沖町1-1-3番地
TEL 084-981-3160 FAX 084-981-3170

<http://www.jfe-plr.co.jp>